

令和元年8月5日

# 令和元年度 学校関係者評価報告書

学校法人大原学園  
大原外語観光&ブライダルビューティー専門学校  
学校関係者評価委員会

学校法人大原学園大原外語観光&ブライダルビューティー専門学校、学校関係者評価委員会は、平成30年度自己点検・評価報告書に基づいて学校関係者評価を実施し、以下のとおり報告致します。

## 1. 実施日

令和元年7月17日

## 2. 学校関係者評価委員

江口 美貴 氏 (株式会社 ヴルーメン 取締役会長)  
信下 かね子 氏 (株式会社 メルシー 専務取締役)  
高野 芳樹 氏 (株式会社 T A T 代表取締役社長)  
岩谷 友晴 氏 (株式会社 J T B 神戸支店 営業第三課長)  
水谷 雅彦 氏 (東武トップツアーズ株式会社 関西支社 大阪法人事業部 第二営業部 部長)  
鈴木 洋二 氏 (株式会社 T E I グループ長)

### (事務局)

田中 克実 (大原学園大原外語観光&ブライダルビューティー専門学校 校長)  
宮路 信美 (大原学園大原外語観光&ブライダルビューティー専門学校 副校長)  
藤川 宏明 (大原学園大原外語観光&ブライダルビューティー専門学校  
外語・IT・スポーツ・医療教務部部長)  
山本 省二 (大原学園 関西圏就職本部)  
藤井 智香 (大原学園大原外語観光&ブライダルビューティー専門学校  
ブライダルビューティー課 課長)  
梶原 賢二 (大原学園大原外語観光&ブライダルビューティー専門学校  
外語観光課 課長代理)

## 自己点検・評価の概要

大原外語観光&ブライダルビューティー専門学校の平成30年度における自己点検・評価については、全般的に良好な結果であった。

学校運営は、意思決定システムが確立されており、円滑な運営が行われている。また、教育理念に基づいた運営方針が明確に定められており、教育理念を達成するための事業計画の策定、各種研修制度の確立を通じて有為な人材育成が行えている。

重点的な項目としては、「留学生に対する相談体制の整備」「学外実習、インターンシップ、海外研修等の整備」「教職員の資質向上」「退学率の低減」の4点を中心に改善を図っている。昨年度の委員会では、学校関係者評価委員の皆様のご助言により、資格の合格率や実践的教育への取り組みについての評価やアドバイスをいただき、継続して即戦力となる卒業生の輩出、ならびに実践的教育の充実を図ることができた。就職率も継続して高い実績を残すことが出来ている。資格取得においては、指導カリキュラムの精査、専門的スキルを習得するための実践的教育のブラッシュアップへとつながっている。さらに学科によってはインターンシップについての改訂なども実施しており教育効果は高まっている。

また、学校運営として、予算計画・執行は規定に従って適切に行なわれており、財務状況も安定している。

## 令和元年度 重点目標 1

留学生に対する相談体制の整備

### <現状・達成指標>

資格取得のみならず、日本語補講や専門課程と同レベルでの個別相談を実施している。

希望者に対しては、就職斡旋も行っており、内定率も一定の成果を上げている。

### <具体的方策>

留学生のニーズに合わせて複数のコースで受け入れを行っている。日本語能力に合わせて、希望コースの履修を行っている。

また、日本語学院とも連携を図り、必要に応じて母国語で対応できる環境を整えている。

また、ベトナム人スタッフを配置し、増加しているベトナム人学生への対応を強化している。

### <学校関係者の評価・提言>

留学生の増加に伴い、学校環境の整備が進められている様子が伺える。特にベトナム人留学生の増加が多くなっているため、ベトナム人スタッフを導入し、日本で生活するベトナム人留学生の不安を解消し、充実した学校生活を過ごすための対策をされている点、評価できる。

## 令和元年度 重点目標 2

学外実習、インターンシップ、海外研修等の整備

### <現状・達成指標>

実習や研修等の参加については事前に外部機関と実習内容や研修内容の打ち合わせを行い、期間中は職員が訪問・引率し、事故やトラブルにならないように十分注意している。

### <具体的方策>

複数回のホテル・ブライダル施設の見学、週末を活用しての企業インターンシップの実施、海外や国内での研修旅行の設定を実施している。しかし、一部のコースのみでできている案件もあるため、継続して改善対応が必要である。

### ＜学校関係者の評価・提言＞

机上で学ぶことができる事柄はたくさんあるが、社会に出て即戦力として活躍するためには学外に出て現場で学ぶことが重要となる。すでに学外実習やインターンシップを導入しているコースはさらなるブラッシュアップを図り、未実施のコースについては現場を見る機会を与える意味でも、早期導入が望ましいと考える。例えば、旅行コースであれば添乗インターンは明確な就労イメージが沸き、高い学習成果が得られると考える。今後も検討を続けてもらえればと思う。

## 令和元年度 重点目標 3

教職員の資質向上

### ＜現状・達成指標＞

定期的に学生アンケートを実施するほか、上司の講義聴講等により専門性、教授力の把握・評価を行っている。

また、企業等と連携した教員研修を実施し、学科ごとに目指す試験の制度や業界ニーズにあわせた教育を実現する教員の資質向上に努めている。

### ＜具体的方策＞

組織的に教員の資質向上のための、教員間の勉強会の実施や、実務家研修並びに、外部研修参加をより充実させていく。

### ＜学校関係者の評価・提言＞

業界人よりレクチャー講義を受けることで、現状の問題点や今後の見通しについて理解し、学生にフィードバックできる体制がとれると考える。ただ、受け身のみであればスキルアップも限界があるため、教職員が外部研修に参加することを推奨する。旅行業界で例を挙げると、添乗業務上、必ず必要となる旅程管理研修の受講により更なる業界知識が身につくのではないかと考える。

## 令和元年度 重点目標 4

退学率の低減

### ＜現状・達成指標＞

近年、経済的理由、精神疾患等で退学を余儀なくされる学生が増加している。退学可能性がある学生の早期発見のために、教員の学生指導力の向上、事例に基づく指導方法の確認、担当者間の情報共有を実施している。

### ＜具体的方策＞

定期的な外部研修（大専各が主催する学生指導に関する研修等）への参加や、学内での研修、担当者間での指導の共有を実施していき、学生指導力を継続的に向上していく。

### ＜学校関係者の評価・提言＞

退学者は様々な理由があるため、一律の指導が難しいと考える。学生指導力のある教職員でさえ防ぐことが難しいケースがある。他校の事例であるが、特定の学科で「発達障害」の学生が多くいるところでは、発達障害の知識を習得し、個々の学生の良いところを見出して伸ばす指導を心掛けているとのこと。これらにより退学率軽減が図れている面もある様子。昨今、精神面が不安定な学生も多いため、カウンセラーを導入することも良いかと考える。

## **全体評価と総括**

(学校関係者評価委員)

大原外語観光&ブライダルビューティー専門学校の教育成果及び学生指導並びに学校運営の取組みについて、企業の視点から検証を行い自己評価結果は妥当であると評価頂いた。現状として、学生、保護者はもちろんのこと、学生を採用する企業でも大原外語観光&ブライダルビューティー専門学校では、良い教育を提供できているとのご意見もあった。

今年度、重点課題の中で留学生に対する指導体制の整備など4点に絞り込んで改善活動に取り組んでいる点は良いと思うが、実現できていない項目や課題を抱えている事案等、更なる発展形が構築できるよう提言頂いていた。

(事務局)

学生の「実学教育と人格育成教育をテーマとした就職教育の充実」を教育テーマに掲げて、教職員全員が一丸となって学校運営・教育活動に取り組んでいる。多くの大原卒業生が実社会で活躍していることは、社会的貢献の意味で非常に大きな役割を果たしている。

今後も目まぐるしく変化する社会情勢に対応しながら学校運営を進化させ、現状に満足することなく、即戦力となる学生を育成していきたい。

今回の委員会でも、学校関係者評価委員から様々なアドバイスを頂戴した。大原外語観光&ブライダルビューティー専門学校運営の更なるブラッシュアップを図っていきたい。